



駒林小 学校便り

令和2年度
8月号
7月30日発行

支え合いからの学び

副校長 佐藤 勝也

子どもたちの元気な笑顔が戻ってきてから、早いもので2か月が過ぎようとしています。子どもたちは春からずっと再登校の日を待ち望んでいたのでしょうか。マスク着用やソーシャルディスタンスの確保といった新しい学校生活様式をよく理解し順応しようと努力しながら 学習にも意欲的に取り組み、日々の頑張っている姿が見られることを たいへん嬉しく思います。6月当初からの段階的な学校再開におきましては、保護者の皆様方や見守り隊をはじめとした地域の皆様方、そして臨時休校当初から放課後児童緊急受入れ等でもお力添えをいただいた駒林小キッズクラブの皆様には、たくさんのご理解とご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

さて、7月からは、給食や清掃活動ともども午後の授業も再開しておりますが、コロナ対策のためにまだまだいろいろな面で制限を受けている学習活動があるのも正直なところです。学年によっては、今後そういった制限が解除できる社会情勢になることを期待しつつ、教科書の順番どおりではなく 今できることから…ということで、学習単元の配列を一部入れ替えたりして工夫している教科/領域もあります。

また一方で、このコロナ禍に、子どもたちは、逆にこれまでの学校生活の中では学び得なかった貴重な経験もしているように感じます。

皆様方もご存じのとおり、本校では、この6月と7月の日課表において、休み時間や給食/清掃の時間を低学年と高学年で分散させています。従前の学校生活では、限られた時間のなかで全クラスが一斉に給食を取りに行く、食べ終わった後に下膳する、ごみステーションに教室のゴミ箱のごみを捨てに行く、…という動きになっていましたが、現状はこれらが同時に行えないので、高学年になればなるほど、順番を待つ場面も出てくるわけです。

ややもすると、世の中のすべての出来事について、私たちは効率化を求められることの方が多いかもしれませんが、今現在の学校生活においては、いたずらに効率や成果を求めることができない、そういうことを学ぶ時期であると構える必要もあります。

しかし、子どもたちにとっての、こういった制限下での生活が、ただの「不自由」「忍耐」だけではなく、もう一歩先にすすんで、「学校のみんで協力して生活しているんだ」「みんなで共通のルールをしっかり守っていくんだ」「自分たちに先の順番を譲ってくれる人たちに支えられているんだ」という前向きな気持ちをもつことにつながってくれることを期待しています。こういった心情を育むにあたっては、単に頭だけで理解するのではなく、理屈抜きで実際に体験し、それをひとつひとつ積み重ねていくことが大切です。自分の身を守らなければならないという条件下で 他者をも尊重し理解しようとすることは、これからの国際社会をよりよいものとし 生きていくためにも、とても重要な人間的素養であると考えます。

最後になりますが、本校の新しい学校生活様式の日課表を実現するにあたっては、子どもたちに寄り添い新ルールに取り組む学級担任のみならず、児童の給食の配膳/下膳の時間が長くなる分 その合間の短い時間で自分たちの昼食を摂る給食調理室のスタッフ、ごみステーションに長い時間立ち続けて子どもたちを迎え待つ技術員、校内の衛生管理や環境整備のための予算執行に気を配る養護教諭や事務職員、緊急受入れ児童の支援に始まり 登下校や休み時間の”密”を避けるべく当番制で昇降口や校庭での見守りを続ける児童支援専任や専科教諭を含めた級外の教職員、…といった 本校教職員全員の協力体制のもとに実現されていることを付け加えさせていただこうと思います。

短い夏休みを有意義にお過ごしになられることを祈念しております。今後とも、本校の教育活動へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。